

# あの日から3年

## ～公益財団法人みちのく未来基金のあゆみ～

2011年3月11日の東日本大震災から3年、被災地の復興には今尚、数々の支援が必要です。

「みちのく未来基金」は東日本大震災で両親又はどちらかの親を亡くした子ども達へ、高校卒業後の進学を震災から20年以上支援する為、2011年10月に民間企業3社により設立されました。

### 「みちのく未来基金」奨学金制度

東日本大震災で、多くの愛する親を亡くした子ども達があります。震災当時、進学や進級を間近に控え、限らない夢や希望を抱いていた彼らに、その未来をあきらめる事なく真にふるさと復興の礎となり、復興の為に役立ってほしいとの願いを込めて、カゴメ(株)、カルビー(株)、ロート製薬(株)の3社が発起企業となって設立されました。2011年10月に一般財団法人として活動を開始し、同年12月には、公益財団法人として認定を受けました。この奨学金制度は、震災遺児に高校卒業後の高等教育進学(大学・短大・専門学校等)の為に必要な入学金と授業料を「返済不要」「人数制限なし」で年間上限300万を支給するものです。

### みちのく生「第3期生の集い」

今春、みちのく未来基金に申請して進学を果たした105名の内、52名が【わ(話・和・環)】をテーマとし、2014年3月に開催した「第3期生の集い」に参加してくれ、サポーター(寄附支援者)も多数出席の中、前途を祝しました。(みちのく生)みちのく未来基金からの奨学金給付対象者(基金スタッフからの現状報告に続き、出席の3期生達が緊張しながらも一生懸命自身の夢や目標を一人ずつ、発表しました。

また自主的に参加した1・2期生の先輩や全国からの寄附支援者との和やかなランチパーティーで「わ」を深めました。現在3期生の他に、2012年4月に進学した1期生96人と2013年4月に進学した2期生122人と併せ延べ323人への奨学金給付を実施しています。

### みちのく生「旅立ちの会」

これまでの支援で、専門学校課程を修了した延べ29人が社会に羽ばたきました。

「卒業後はふるさとに帰って復興に役立ちたい」、「仕事を通して人の



第3期生の集いにスタッフ参加してくれた1.2期生たち

役に立ちたい」と話していた、本年専門学校を卒業した26人の内、8人が「第3期生の集い」内で実施の基金の卒業式に当たる「旅立ちの会」に出席しました。卒業生の声を就職先と併せて一部抜粋でご紹介します。

- ・南三陸町役場/簿記専門学校を卒業し就職。南三陸町を震災前よりも更によくするのが自分の使命。
- ・小学校職員/直接復興には関われないかもしれないが、将来を担う子ども達のサポートがしたい。
- ・美容師/震災で一度は諦めかけた



2014年3月に開催した第3期生の集い集合写真（於：宮城大学）

■寄附金状況

	金額(円)	金額比率	件数	件数比率
個人	204,964,140	17.3%	10,492	88.6%
法人・団体	980,994,783	82.7%	1,350	11.4%
合計	1,185,958,923	100.0%	11,842	100.0%

\*2014年3月末現在

夢を、基金や皆さんのおかげでかなえる事が出来た事に感謝し、今後は後輩達を支えていきたい。

奨学金制度の広報活動

事務局では岩手、宮城、福島3県の全高校に案内を送り、本奨学金制度の広報を要請してきました。厚生労働省によると、少なくとも1,7

24人が東日本大震災で親を亡くし、内2012年9月時点で91人が3県を離れているとの事です。そこで転居先として確認出来た21都道府県庁や各地の支援団体のご協力を頂き、お報せ出来たケースもありますが、個人情報保護法が壁となつて未だ71人の住所がわからない状況です。支援内容を知らずに進学を諦める子ど

も達が決してないよう、今後も息の長い広報活動を続けたい。

広がる支援企業の「輪」

現在は発起企業3社と2013年4月から基金に参画のエバラ食品工業株式の計4社からの派遣スタッフでほぼ人員が賅われており、日本では珍しく寄附金を可能な限り奨学金に回す事が可能な運営形態をとっています。右記4社以外で52の支援企業・団体（5年間で500万以上の寄附を頂いている企業・団体）や400以上の法人・団体、1600人以上の個人の皆様に支えられ、2014年3月末迄に11.8億円の寄附金が集まっています。

最近では企業としての継続寄附に加え、社員が継続的に社会貢献出来る仕組みである定額募金制度の支援先として当基金を採用頂いたり、基金の全国告知への案内やご協力、又、売上収益金を全額寄附となるカレンダー企画・販売等、様々な基金への活動支援の輪が広がっています。

未永い支援活動へ

在籍生の増加に伴い、奨学金給付は年間3億円、25年間で総額約40億



第3期生の集い前日研究で1,2期生と3期生の様子

円と見込んでおります。これまで多数の法人・団体及び個人の方からご寄附を頂戴しておりますが、現状は必要額の30%に満たない状況です。長期に亘る支援継続の為、志を同じくする全国の幅広い業種の企業や個人の方からの寄附金を広く募っております。加えて東日本大震災による全国に散らばった震災遺児に関して、まだ子どもが小さい保護者にも早目の連絡を呼びかけています。

事務局 ☎ 022(343)9996  
みちのく未来基金ホームページ  
<http://michinoku-mirai.org/>